

やけど

観察ポイント

- 1 「原因は」、「範囲はどのくらい」、「皮膚の状態は」？
- 2 やけどは範囲と深さが重要で、深さは第1度～第3度に分類される。
【第1度】皮膚の表面が赤くなっているが、水ぶくれにはなっていない。ヒリヒリする。
- 【第2度】水ぶくれ(水泡)ができています。焼けるような強い痛み。
- 【第3度】皮膚が黒く焦げていたり白くなっている。
あまり痛みは感じない。
表皮が脱落している。

応急処置観察ポイント

- 1 流水で(水道を流しながら)とにかく冷やす。
- 2 冷やす時間は、なるべく長く、痛みがなくなるまで冷やし続け、冷やしながらか受診しましょう。
- 3 衣類などは無理に脱がさず、そのまま冷やす。
- 4 水ぶくれ(水泡)はつぶさない。
- 5 受診するまでは、何も塗らない。

やけど

まずは、とにかく冷やす!

- 1 皮膚が黒く焦げていたり、白くなっていたり、表皮が脱落している(第3度)。
- 2 全身または広範囲。



**119
救急車を
呼ぶ!**

- 1 水ぶくれ(水泡)ができています(第2度)。
- 2 範囲がやけどした子どもの手のひら大かそれ以上。



一次・二次救急医療機関
を受診してください(2~5ページ)

- 1 範囲が狭く、赤いだけで水ぶくれ(水泡)になっていない(第1度)。

流水で10分程度冷やして翌日の朝など、かかりつけ医の先生に診てもらってください。(32ページ参照)

事故防止

- ポット、アイロン、ライター、マッチなどは、手の届かない安全な場所に置きましょう。
- テーブルクロスを引っ張り、湯茶などがぶれることもあるので、テーブルクロスは使用しないようにしましょう。
- ストーブやファンヒーターに触れないよう、柵を設けましょう。
- こたつ、電気毛布、電気カーペットなどは、長時間触れると「低温やけど」をする危険性があるので、寝かせたあとはスイッチを切るようにしましょう。
- 夏のアスファルトを裸足で歩かせないようにしましょう。
- 車のボンネット等にさわらないようにしましょう。

やけど

観察のポイント

- やけどは、0～4歳児に多く見られ、熱湯によるやけどが最も起こりやすいものです。また、使い捨てカイロやぬるい湯たんぽでも長時間あたると、低温やけどになることがあるので注意が必要です。
- やけどは範囲と深さが重要です。やけどの深さは、第1度～第3度に分類されています。
- 水ぶくれができたなら第2度の熱傷です。受診しましょう。

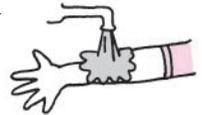
家庭でできること

- やけどの程度が第1度または第2度の場合には、出しっぱなしの水道水や氷水で10分以上冷やしてください。服を脱がせづらいときは、服の上から冷やしても大丈夫です。
- 氷やぬれたタオルで冷やしたまま、受診してください。

- ㊦ ○水ぶくれは破らないようにして清潔にしておいてください。
- 水ぶくれがあるときや、さわると痛いようなときはガーゼをあて、包帯でくるんでおくとよいでしょう。

ワンポイントアドバイス

- 油やアロエを塗ったり、民間療法を行うことはやめましょう。
- 乳幼児の場合は、スイッチを入れたままのホットカーペットや使い捨てカイロなどでも低温やけどになることがあるので注意が必要です。
- 衣服が皮膚にはりついて脱がせにくいときは、無理にはがしてはいけません。衣服ごと十分に水で冷やしてください。
- 子供の皮膚はやわらかく、受傷後長い間熱の作用が続くので、冷水または氷で患部を十分に冷やしてください。



知って安心 Q&A

Q どのように冷やしたらよいですか？

A ○手足の場合
出しっぱなしの水道水で冷やしてください。患部に直接、勢いよく水をあてると水ぶくれを破ってしまったり、冷たすぎて長時間冷やせないで、洗面器に受けるなどして、水の勢いを弱めて冷やしてください。

○顔や頭の場合
シャワーの水や濡れたタオルで冷やしてください。鼻や口の周辺で、呼吸しづらい場所のときは、こまめに冷えたタオルを取り替えながら冷やしてください。

㊦ ○全身・広範囲の場合
衣服を脱がさずに冷やしてください。衣服を脱がせる時に皮膚がはがれてしまうことがあるので、衣服の上から水のシャワーをかけてください。濡れたバスタオルで包み、その上から毛布をかけてくるみ、急いで病院へ行って下さい。

Q 水ぶくれは、破らない方がよいのでしょうか？

A 破る、破らないにかかわらず、水ぶくれができた場合は、十分に冷やしたのちに医療機関を受診しましょう。

㊦